

商学専攻 TOPICS

以下では商学専攻から3名の教員が各自の研究の魅力・面白さなどを紹介しています。大学院のカリキュラム紹介のページなどと併せて参考にして下さい。

金 雲鎬（きむ・うんほ） 教授

担当科目： マーケティング特殊講義A・B、理論構築特殊研究B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

研究分野は「B to B マーケティング」と「デジタルマーケティング」です。企業間の関係性や相互作用、組織内部問題をマーケティング観点で捉えようとしています。どちらかというとな見えないところで起こるビジネス現象に関心があります。そのためにデジタルマーケティングといっても SNS 活用やオンライン購買のような消費者行動論をベースとする研究ではなく、IT 技術の活用が企業間関係や組織内部に与える影響に焦点をあてて研究しています。演習では、「良質の論文を執筆すること」を目標としています。企業のバックヤードで起こるマーケティング現象に関心がある大学院生と二人三脚で良質の論文を執筆することがとても楽しみです。

堀田 治（ほった・おさむ） 准教授

担当科目： 消費者行動論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

私は舞台芸術のマーケティング研究を起点として、鑑賞者やパフォーマーの認知および非鑑賞層の行動阻害要因の研究を消費者行動論の理論に基づいて行っています。また、この領域で培った知見をもとに、アウトドアやライブ、旅行など体験的な消費と、その経験価値についても研究しています。研究成果は劇場経営への示唆はもとより、店舗における顧客体験デザインや近年注目されているコト消費の構築にも活かせる内容になっています。研究対象は柔らかめですが、研究は消費者行動研究の知見と方法論に則って行っており、これまであまり研究対象とされてこなかった分野のための発見も多く、新たな概念や知見が得られたときは研究の醍醐味を感じます。

松原 聖（まつばら・きよし） 教授

担当科目： 貿易論特殊講義A・B、商学演習

研究の紹介・アピールポイントなど：

今年度の貿易論特殊講義Aでは、伊藤万里・田中鮎夢『現実から学ぶ国際経済学』有斐閣、2023 年を履修者と輪読しています。教科書の内容を原データまでさかのぼるなどして、世界経済・日本経済の諸問題を幅広く議論することを目指しています。

専攻は国際経済学で、日本企業の海外進出やサービス貿易としての観光を主に研究しています。大学院生の論文指導はテーマを国際経済に限定せず、日本の産業・企業の事例研究など、大学院生の興味に応じて行っています。ぜひ商学研究科に興味を持って、オープンキャンパスなどに足を運んでもらえればと思います。
